

第3回「日経ものづくり大賞」を受賞

～CO2削減を推進する「ベトナム・ランドン油田随伴ガス回収・有効利用CDMプロジェクト」～

記者各位

当社(社長:西尾 進路)は、CO2削減を推進する「ベトナム・ランドン油田随伴ガス回収・有効利用CDMプロジェクト」について、第3回「日経ものづくり大賞」を受賞しましたのでお知らせいたします。

「日経ものづくり大賞」とは、日本経済活性化の原動力になる「ものづくり」を推進するため、日本経済新聞社が2004年度から毎年度、優れた国内外の工場や研究所、およびそこで採用するプログラムやシステムに対し、その功績を称えるために実施しているものです。

当社は、グループの石油開発プロジェクト会社がオペレーターとして操業するベトナムのランドン油田において、CO2排出削減プロジェクトを推進しています。今年2月、CO2削減としては世界最大規模であり、原油生産に伴う随伴ガスを回収・有効利用するプロジェクトとしては世界初となるCDMとして、国連機関(CDM理事会)の承認を受けました。今回、この取り組みが高く評価され、同賞を受賞したものです。

当社は、経営理念に「Environmental harmony(地球環境との調和)」を掲げ、「環境」をCSRの中の最重要分野と位置づけており、今後とも温暖化対策を始めとする地球環境保全に努め、サステナブル(持続可能)な社会の創造に貢献してまいります。

記

1. プロジェクトの概要

ランドン油田(海上)での原油生産の際に発生する随伴ガスは、従来、海上で燃焼させていましたが、この随伴ガスを回収し、新たに海底に敷設したパイプラインにより、発電燃料としてベトナム国内の発電所に供給します。これにより、既存の発電燃料の消費を削減でき、約680万トン(年間68万トン)のCO2削減が可能となります。

2. プロジェクトの特長

(1) CO2削減として世界最大

本プロジェクトは、年間約68万トンのCO2の削減が見込まれ、CO2を削減するCDMとしては世界最大です。

(2) 随伴ガス回収・有効利用として世界初

当社は、ランドン油田において、世界に先駆けて随伴ガス回収・有効利用のCDMを手がけ、その方法論(国際ルール)を自ら提案いたしました。当社の提案は、CDM理事会の承認により世界初の当分野の方法論として確立され、今後、世界各地の随伴ガス回収・有効利用によるCO2の削減に地球規模の貢献ができるものと考えております。なお、本プロジェクトにおいて、当社は、方法論の確立、CDMのプロジェクト設計書の作成、日本政府承認、CDM理事会への申請・承認に至るまで、全工程を自社で行いました。

3. ランドン油田の概要

ランドン油田はベトナム南部沖合の15-2鉱区に位置する海上油田であり、当社の石油開発部門である新日本石油開発(株)が出資している日本ベトナム石油(株)がオペレーターとなり、コノコフィリップスやベトナム国営石油会社と共に、1998年8月より原油の生産を開始し、2005年6月に累計原油生産量が1億バレルに達しました。現在の生産量は6万2千バレル/日です。

(1) ランドン油田の権益比率

日本ベトナム石油(株) 46.5%

コノコフィリップス社 36.0%

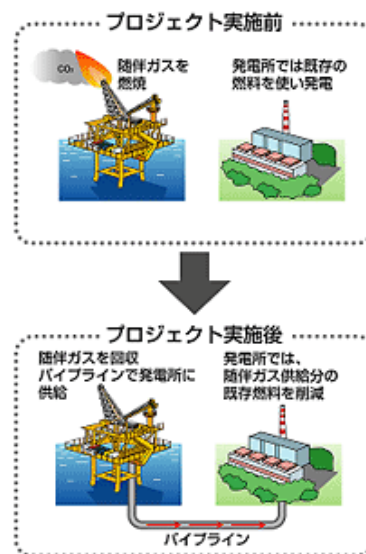
PVEP社 17.5%

※ PVEP社(Petrovietnam Exploration and Production):ベトナム国営石油会社の子会社

(2) 日本ベトナム石油(株)の株主構成

新日本石油開発(株) 53.13%

新日石資源投資(株) 43.94%





ランドン油田写真



ランドン油田鉱区図

以上